

2012年度 第28回

在日アジア人留学生への研究補助

受給生紹介



東京・三田の慶應義塾大学にて

RASAーアジアの農村と連帯する会
Rural Asia Solidarity Association

氏名 寇 金萍 (コウ キンピン)
出身 中国
大学 東京学芸大学
情報教育 修士2年



(留学目的)

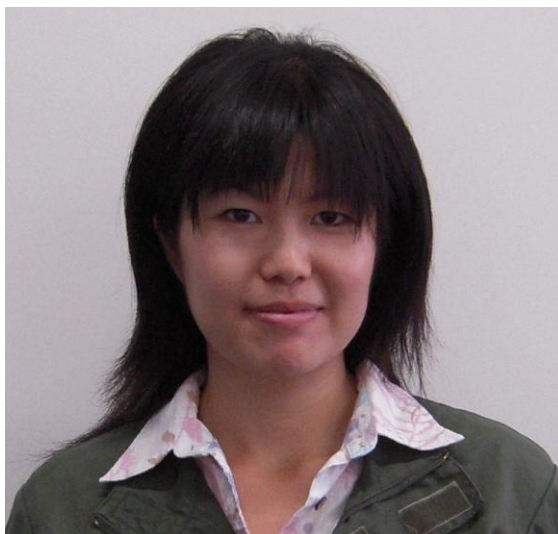
私は子どもの時に教員になりたいという夢がありました。しかし、高校に進学するころから早く社会人として活躍し社会に貢献したいとも考えるようになり、迷いながらも専門学校に進学することにしました。専門学校を卒業後は、販売に関する仕事に就くことができましたが、働きながらも教員になりたいという幼少の時の夢を払拭することはできませんでした。また、接客の仕事を通し多くの人と接する中で、コンピュータやインターネットに関する情報通信技術の重要性を認識し、日本という隣国との関係に興味を持つようになりました。そこで、これら3つの夢の実現のため、もう一度学校に戻り学び直す決心をしました。最初は、中国の日本語学校で2年間日本語を勉強し、本格的に日本語と情報関連知識と技術について学ぶために、山梨英和大学に進学し勉学に励んできました。そして、去年の4月からは教員になるための知識とスキルを身につけるべく、東京学芸大学大学院総合教育開発専攻情報教育コースに進学し、日々勉学と研究に取り組んでいます。

(研究課題)

研究テーマ：「日本語習得のための協働学習支援システムの開発」

現在、母国(中国)において日本語を勉強している人は70万人を超えています。しかし、日本語の習得は単なる暗記ではなく、為すことによって学ぶ (learning by doing) ことが重要とされ、一朝一夕でなし得ることは困難です。そこでeラーニングを用いて、日常経験を生かし、興味や関心を高めながら仲間と楽しく勉強できる協働学習支援システムの開発をしています。本システムにより、日本語教育における協働学習が実現されることによって、学習者間のコミュニケーションによる仲間の援助を受けながら、体験的に日本語を習得するための真正性の高い学習環境を提供することが可能になります。

氏名 田 家綾 (デン カリン)
出身 台湾
大学 東京大学
人文社会系研究科 博士1年



(留学目的)

自分の研究の関心と合致する東京大学の藤井省三先生（現在の指導教授）のゼミに入ることを目標に日本への留学を決めた。これからも研究を続け、いずれは大学の学者になりたいと考えている。特に、グローバル化下の今日、日台間の交流に繋がる研究機構において、日本で勉強した台湾映画・都市空間、及びその日本における受容を日台の大学生に教える事ができれば理想的である。その上で、これまで様々な国で受けた教育を土台としつつ、日本留学を通して得た学術的な成果をより多くの国々の人に伝える事が目標である。

(研究課題)

題目：「帝国の台北からグローバルの TAIPEI へー台湾映画における都市の脱領域化をめぐって」

修士論文では、侯孝賢映画の創作年表に基づいて映画に表彰された都市発展史を構築した。侯孝賢は、「映画というメディアを手段として都市を記録すること」が常に念頭にあると考えられる。2000年以後、侯孝賢は「目の前の都市」を撮りはじめ、台北に留まらず、東京、パリなどの都市にも飛び込んでいくのである。博士課程では、侯孝賢が再現する台湾都市空間とグローバルシティの比較研究を行いたい。近年、台湾映画界では、草の根文化によって都市のイメージを展示する映画は非常に多い。しかし、グローバル化の世の中だからこそ、国境の曖昧化が進行し、われわれは容易に外国へ行くことになった。このようなパラドックスを解明したい。

氏名 梁 洙京 (ヤン スギョン)
出身 韓国
大学 埼玉大学
教育学研究科
修士2年



(留学目的)

私が日本に留学してきたのは、日本の「祭り」に興味があったからです。日本の「祭り」に根づく地域文化による若者たちの地域アイデンティティ形成及び参加意識に深い関心を持っていたので、日本へ留学するようになりました。また、日本の地域文化を研究した経験を活かして両国が交流していけるような仕事に就きたいと思っていました。

(研究課題)

近年韓国では経済至上主義の下、新自由主義的な政策や教育が優先で、地域文化や社会教育には全然力を入れない状況であります。日本でも韓国と同じような過疎化が進んでいますが、一方で「祭り」などで見られる地域文化はしっかりと受け継がれてきています。地域ならではの伝統的な参加文化が残っていて、そこに参加することが「当たり前」だと思える日本の若者たちの意識を研究することで、韓国の置かれている状況を見つめ直したいと思います。

氏名 潘 曉丹 (ハン ギョウタン)
出身 中国
大学 埼玉大学
文化科学研究科 博士3年



(留学目的)

歴史学の博士課程を修了しましたら、帰国して、中国の大学で引き続き日本で勉強した歴史学を研究しながら歴史学の教育に従事したいと思う。

(研究課題)

私の研究テーマは「満州国末期における労働力政策及び東北地域社会の変化」です。現在、論文第三章である「徴発された労働者の家族生活実態について」執筆中です。満州国末期、軍事要塞工程に労働者が大量徴発され、残り家族はどのような形で生活維持して来たのか、本論では食糧徴発下の家族生活実態と匪賊横行中の農村地域社会生活実態を究明したいと思う。

氏名 カル加 (カルジャ)
出身 中国青海省
大学 東京学芸大学
人文科学研究科 研究生



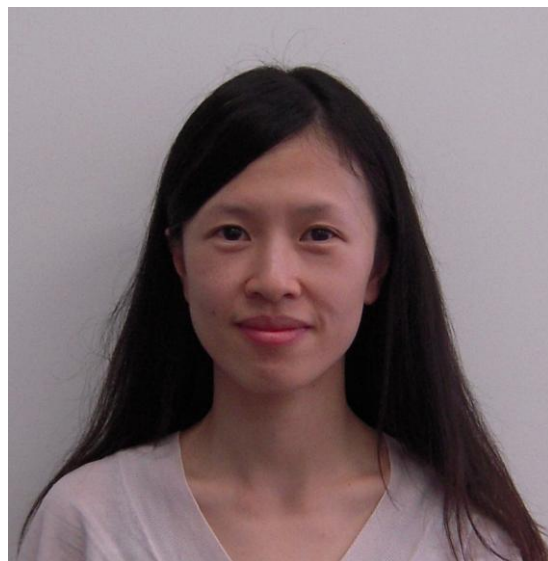
(留学目的)

日本の経済産業省と同じく、中国にもほぼ同じ機能をもつ国家発展改革委員会（改革委員会）という機関がある。それを区、省、州、市、県等の行政レベルに分けた地区にそれぞれ置かれている。たとえ、大都市あるいはもう既に発展を遂げたところから、誰かの一流の政策立案者を地方で雇おうとしても待遇が雇われないほどではいなければ誰一人をも招けないことはその空間にとっては現実でもある。それで、将来故郷の改革委員会で政策立案者として働けるように、今日、経済地理学の薫陶を受ける「留学の橋」でたどり着いている。

(研究課題)

研究テーマ：北京オリンピックの影響をうける中国の宝石市場—青海省算出の崑崙玉の現地経済への影響を例として—という内容で試みたい。

氏名 許 尚廉 (HSU Shang Lien)
出身 台湾
大学 東京芸術大学
美術研究科 研究生



(留学目的)

未知な染織の世界に足を踏み入れてから、不安定な糸がかたちを変え、明解で力の強い構図を作り上げるタペストリーに非常に心を惹かれた。しかし、台湾ではタペストリーに模様で表現が少ないため、日本で織の勉強を続け、博士後期課程に進学することを希望しています。

(研究課題)

近代、台湾では政治的、社会的に大きい変化が起こり、都市の発展とともに、伝統を失いつつ、生活のかたちも変わってきた。自身の中で台湾を母国としてそこで生活し、また様々な経験をしながら見て感じてきた事象を綴織技法を使い、図案と素材による新しい作品のイメージを展開しようと作品を作り始めました。

現在は研究生として東京芸術大学に在籍しています。個人の研究をしながら作品を作り、来年の入試の準備をしています。

氏名 Eva Fatimah
出身 インドネシア
大学 横浜国立大学
教育人間科学部 研究生



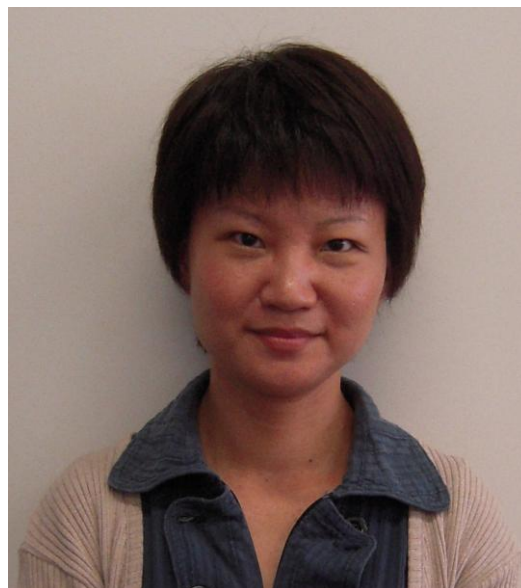
(留学目的)

私はインドネシアの大学で教師になりたいと思っています。インドネシアで日本語の教師がたくさんいますが、日本の大学を卒業した教師はあまりいません。私は日本の大学を卒業して教育人間に関する専門を教える教師になりたいと思っています。現在、世界ではグローバル化が進みインドネシアでも国際化が進んでいます。そのため、私はグローバル社会で活躍できる人材になりたいと思います。そのために留学を決意しました。

(研究課題)

「日本人のイスラム女性から見るイスラムの中のジェンダー」について研究しています。

氏名 郭 曉東 (カク ギョウトウ)
出身 中国
大学 千葉大学 看護学研究科 博士2年



(留学目的)

中国における看護の質を改善することを目指して、日本の進んだ看護方法を学ぶために、日本に留学しました。千葉大学看護学研究科に進学後、日本の看護の魅力に惹かれ、初めて「看護」とは、「看護学」とは、を学問的に考え始め、看護の本質を探究しつつ、看護学独自の研究方法論も先生方の指導の下に応用できるようになりました。さらに、ティーチング・アシスタントの経験を通して、教育能力も向上しました。現在は理論、実践方法、研究、教育に関する各方面の知識をもとに、中国における看護実践の開発と研究を目的としています。

(研究課題)

中国における乳癌患者への看護を向上させることを目指して、博士研究のテーマは「中国における乳癌患者への看護援助に関する研究」です。本研究に期待される結果及び社会的意義は、中国における乳癌患者への看護の実態を明らかにしてから、日本の進んだ看護理論を応用した援助方法を考案します。そして、明らかになった方法を臨床で適用し、その効果を明らかにするとともに、中国における乳癌患者への看護の示唆を得ることです。